

学校教育目標
集団の中で自らを律し
目標の実現に向け努力し
自らを高めようとする姿勢の育成

塚口中だより

最終号

〒661-0003 尼崎市富松町4丁目3番1号 (Tel)06-6421-0620 <http://www.ama-net.ed.jp/school/J15/index.html>

堂々と巣立ちゆく



3月13日、春の日差しを感じる日に、多くの保護者、地域の方々、先生たち、そして、1、2年生の代表生徒が祝福する中 237名の3年生は卒業していきました。

卒業証書授与や在校生代表の中村美波さんの送辞に今までの生活を振り返りながら、感謝の気持ちを答辞、学年合唱で伝えてくれた3年生。

卒業と共に、これから新しい生活が始まります。それぞれが4月からスタートする生活を実りあるものにしてほしいと願っています。

【卒業式 式辞より】

ここかしこに春の足音が聞こえてくる三月。ここ塚口中学校にも旅立ちの時がやって参りました。(途中略)

さて、私はここで、これからの人生を生き抜いていく卒業生の皆さんに一つ望んでおきたいことがあります。それは、「自主・自律」です。

皆さんの一人一人が、「もう一人の自分」の存在に気づき、大切に育ててほしいのです。「もう一人の自分」とは、誰にでも存在しています。姿かたちは見えません。けれども、いつも皆さんの心の中に必ずいます。「こんなときどうすればいいのか」と悩んでいるときに、そっと耳元で教えてくれるのが、「もう一人の自分」です。「こんなことをしてもいいのかな」と迷っているときに、してはいけないよと、厳しく注意してくれるのが、「もう一人の自分」です。誰も見ていないから、適当にしておこうと思ったときに、「卑怯だ」と、本気になってしかってくれるのが、「もう一人の自分」なのです。「もう一人の自分」は、本当の自分を見失わないように見守っているのです。相談にのってくれたり、時には叱ってくれたり、勇気づけてくれたりします。

これまでの生活では、お父さん・お母さんに面倒を見てもらったり、学校の先生に教えてもらったり、地域社会の大勢の方々にお世話になることが多くありました。大人に見守られて、自分の取るべき行動を考え、どうしたらよいかを判断してきました。しかし、今、中学校を卒業する皆さんは、これから先、自分の取るべき行動や判断は、他人に頼ったり、他人任せにするのではなく、自分自身で選択し、決定していかねばならないのです。その意味でも、ますます「もう一人の自分」と相談することが多くなるでしょう。

自分をもっと頼りがいのある存在となるように、どんな誘惑にも負けない、本当の強さを持った自分を育てること。

さらに将来に向かって目標を高く持った自分を育てる。そんな「自主・自律」の生活に取り組んでほしいと望んでいます。



節目を大切に

学校には、学期という区切りがあります。学年の終わりから、次の学年のはじめにかけては、学校生活では最も大きな区切りです。この節目を、きちんと乗りきって新しい学年を迎えて欲しいと思います。

「竹」はもともと弾力のある植物ですが、もし竹に節がなかったら、少しの雪にもすぐに折れてしまうでしょう。人間も同じことが言えます。人生の節目がしっかりとれている人ほど、しっかりと成長すると言われるています。新しい学年を何となく迎えるというのではなく、塚口中学校の生徒であるという誇りと自覚をもち、そして新しい学年に進むにあたり、自分はどうのような生活や行動をすればいいのかを考えて下さい。学年が終わるといいう節目をしっかりと過ごし、一人一人が新学年に向かう気持を持って、4月に会いましょう。



4月より塚口中学校に入学してくる6年生を対象とした、「学校説明会」が塚口小学校・尼崎北小学校の両校でおこなわれました。

また、「学校説明会」に先立って各小学校へ出向き、「朝の挨拶運動」を実施しました。

朝、中学生が門に立ち、挨拶と共に「学校説明会」のお知らせをすることで、6年生たちも意識して説明会に参加くれたようです。

執行部のみなさん。工夫を凝らした説明会をありがとうございました。



生徒会執行部は、塚口小学校・尼崎北小学校へ挨拶運動と塚中説明に行ってきました。どちらの学校も礼儀正しく、塚中生に負けないくらい大きな「挨拶」をしてくださいました。そんな新1年生を、みんなで温かく迎えてあげたいと思います。

副会長 佐々木 日菜

生徒会執行部の学校訪問

学校だより最終号のお礼

この3月号が平成24年度最後のお便りとなります。4月19日に『塚口中だより』を出しはじめてから1年がたちました。毎月1回、頑張っている生徒の活動の様子や学校行事を中心に紹介させていただきました。写真もできるだけ載せながら、生徒の活動する様子を伝えさせていたいただきましたが、まだまだ伝えきれないものも多く、恥ずかしい限りです。何とかここまで続けられたのは皆様の温かい支えがあったからと心から感謝しています。平成25年度もよろしくお祈りします。「ありがとうございました。」

